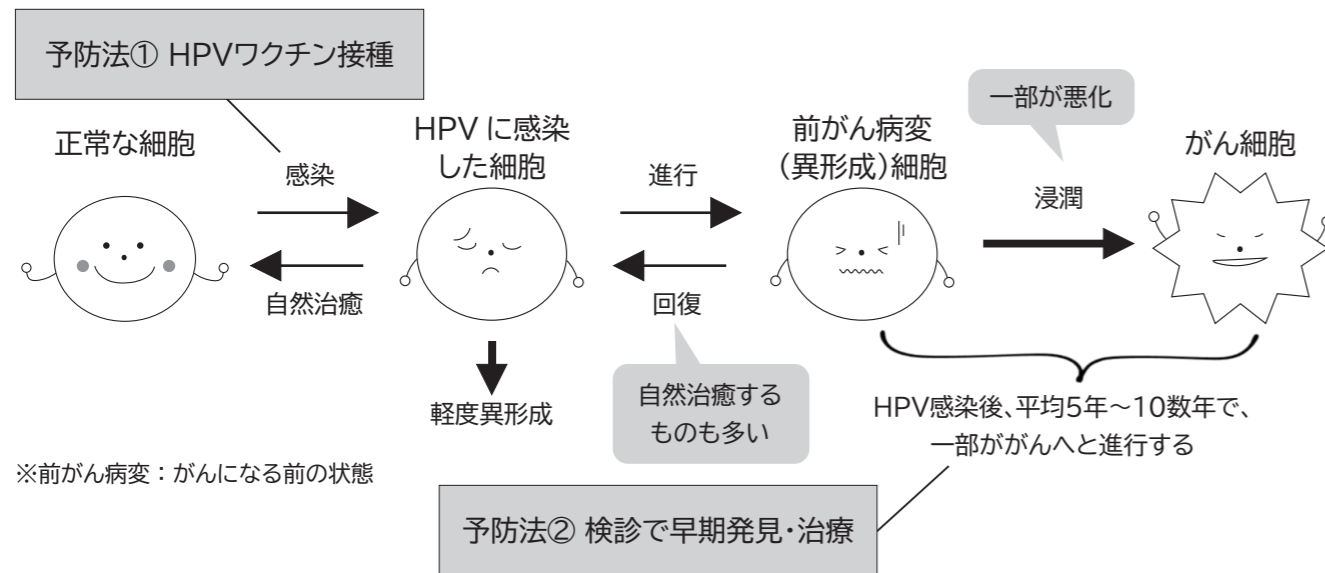


健康な毎日のために”がん検診”を受けましょう

がんは2人に1人はかかるといわれており、全ての人にとって身近な病気です。禁煙や生活習慣の見直し等によって、がんは予防することができます。なかでも、子宮頸がんは『子宮頸がん予防ワクチン(HPVワクチン)』と『検診』による2段階で予防ができます。

子宮頸がん細胞の発生メカニズム



※前がん病変：がんになる前の状態

【予防法① HPV ワクチンで感染予防】

子宮頸がんのほとんどは、ヒトパピローマウイルス(HPV)の感染が原因です。予防接種によって、HPVウイルス感染を予防することができます。現在、小6~高1相当の女性が公費(自己負担なし)で接種することができます。また、平成9年度から平成18年度生まれの方で3回の接種を完了していない女性は、キャッチアップ接種(自己負担なし)の対象となります。それ以外の方も自費で接種が可能です。これを機に検討してみてください。

【予防法② 検診を受けて早期発見・治療】

子宮頸がんは、20歳を過ぎると急激に増え、30歳から40歳代にピークを迎えます。早期発見には検診の受診間隔も重要です。子宮頸がん検診は、がんだけでなく前がん病変の状態でも見つけることができます。軽度の前がん病変の80%はがんに進展せず自然に治癒しますが、残りの一部が子宮頸がんになります。そのため検診は毎年受診することが大切です。

令和5年度の子宮頸がん検診は、医療機関での「個別検診(無料)」がまだ間に合います。ご希望の場合は、保健センターまでお申込みください。

新型コロナウイルス感染症の影響により、検診の受診を控えた方も多いのではないのでしょうか。受けたことのない方、間隔があいてしまった方も、今年こそ全てのがん検診を受けましょう。



令和5年度 神川町中学生議会

問合せ 総合政策課 企画調整担当 ☎0495-77-0701 FAX0495-77-3915

8月3日(木)に中学生議会が開かれました。神川中学校の生徒15名が、実際に議会が行われている議場を使用し、町の執行部に対して質問を行いました。公園の安全管理や神川中学校の設備、通学路の交通安全対策、制服のリユース、町の情報発信等について中学生が日ごろ感じていることを質問し、櫻澤町長や福嶋教育長が答弁を行いました。さらに、踏み込んだ再質問が出る場面もあり、白熱した議論が交わされました。

